

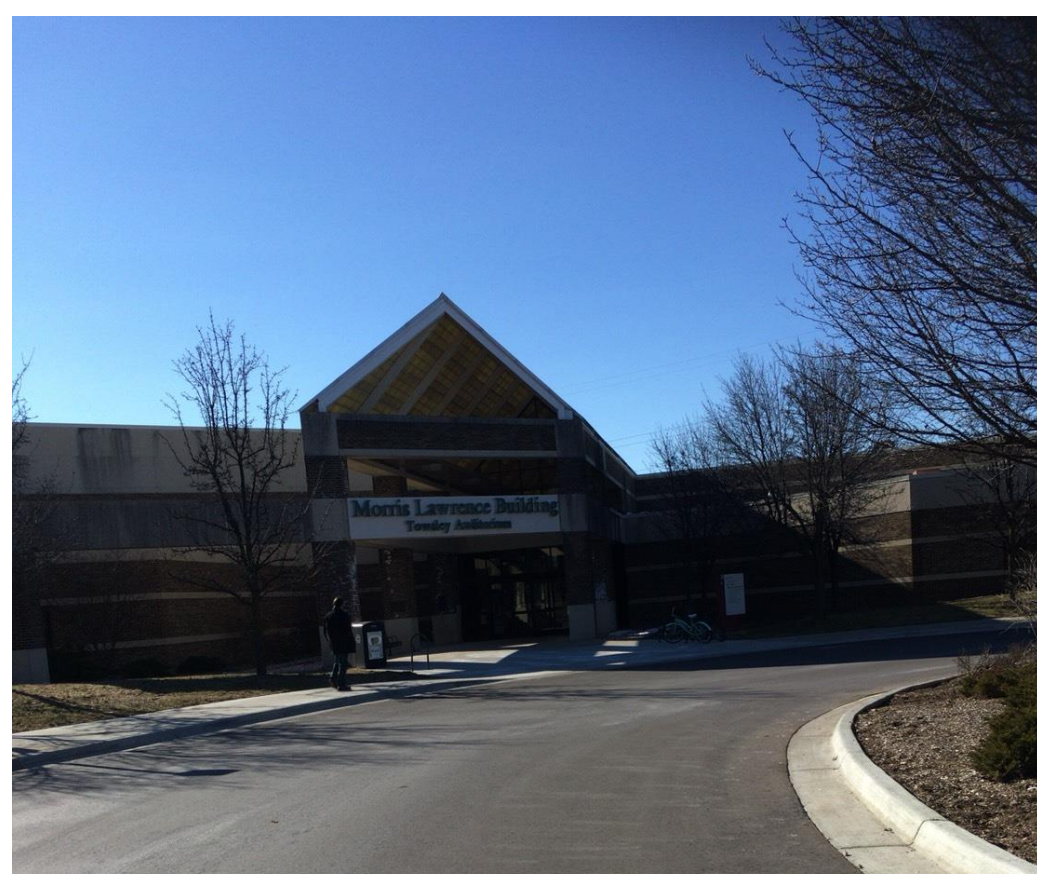


アメリカ 国際若年性糖尿病研究財団（JDRF）の訪問 行先：アメリカ合衆国ミシガン州、ニューヨーク州 2018.3.21～3.26 2年 松田智樹

渡航先での活動内容



ミシガン大学の医師とJDRFのコーディネーターと学生ボランティアの方です。1型糖尿病の治療や予防研究についての面談をしました。特に1型糖尿病の1型糖尿病をスクリーニング検査で早期発見し、予防・治療を開始するための研究について聞きました。疫学的な研究データをもとにDPT1リスクスコアを作成することで患者を早期に特定し、1型糖尿病の発症を予防あるいは遅らせる研究が進められているというお話が聞けました。



ミシガン州のアナーバーで開催されたResearch Road Tour Stopというイベントで、1型糖尿病研究の最新情報について講演を聞いたり情報交換を行いました。



ニューヨーク州のロングアイランドで開催されたType One Nation Summitという学会に参加し、研究者、医療機器企業、家族と情報交換をしました。膵島移植研究についての講演を受けて、その後1型糖尿病の患者が参加するフルマラソン大会を支援するスポーツ用品企業や、糖尿病患者用の食品を開発する食品会社など様々な方面から貴重なお話が聞けました。

目的を達成できたか

現在行われている研究の現状や展望を知ることができました。様々な企業や団体のブースを回って話を聞くことで1型糖尿病に対する支援活動や患者向け商品の開発について知ることができました。

グローバルな視点とは何か

今回の研修では様々なバックグラウンドを持った患者さんのお話を聞く機会がありました。育った環境が違えば病気に対する考え方も違う。一つの枠組みで物事を捉えるのではなく柔軟に相手の気持ちに立って物事を見ることがグローバルな視点だと思います。

将来の進路決定へどう影響したか

1型糖尿病予防研究におけるDPT1リスクスコアのデータ収集など、疫学がいかに1型糖尿病の治療や予防に貢献できるかが分かり、勉強に対するモチベーションが上がりました。

目的以外に学んだ点、反省点

やはり言語の壁が一番の反省点でした。伝わらなくても辞書などを使ってなんとか伝える、聞き取れなくても他の言い方をしてもらったりゆっくり話してもらったりして誠意を見せることが大事だと思います。

後輩へのアドバイス

現地での移動について事前によく調べておくこと。電車やバスなどが分かりづらいことが多いのでしっかり把握しておかないと迷ってしまいます。特別にお世話になる人がいれば日本から何かお土産を持っていくと喜ばれると思います。

研修支援制度に望むこと

貴重な経験ができ、自分のやりたいことについて深く学べる素晴らしい制度だと思います。語学に自信がない人でも気持ちがあればなんとかなるので是非行ってほしいです。